

変えよう!
兵庫県政

憲法が輝く兵庫県政をつくる会
 第1号 2010年5月15日
 メール: Info@kenpo-kensei.com
 ブログ: 「憲法どおりの兵庫を!」 検索

子どもの医療費 中3まで無料化が広がる



入院24市町、通院3市町で実現



「安心して子育てしたい」と行われた新日本婦人の会の県交渉(2009年7月14日)

運動が実って、子どもの医療費助成の拡充広がる

県下の市町が、兵庫県の福祉医療制度に乗せして、独自の助成を拡充し、24市町が中3まで子どもの医療費を無料化しています。

私たちの世論と運動でかつてない勢いで子どもの医療費助成の拡充が広がって、大きな喜びとなっております。

西宮市、小野市、福崎町では、通院についても中3まで無料で、入院・入院ともに中3まで無料を実施しています。

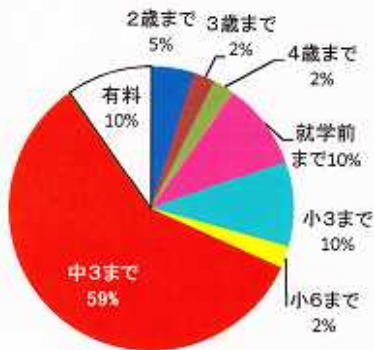
自治体により対象は異なりますが、通院・入院ともに無料制度を実施しているのは全市町の9割に及んでいます。

「子ども署名、支部交渉など、運動が実りました」

新日本婦人の会兵庫県本部 桜井文字事務局長

今、多くの女性が、「安心して子育てしたい。いきいきくらしたい」と願っています。しかし、「夫の収入が激減した」「リストラにあった」など、とりわけ、子育て世代に経済的・精神的負担が重くのしかかっています。「子どもが病気になるって、まず財布の中身を気にしてしまおう」、「治療費、薬代は大変な出費」と、医療費や、予防接種費、保育料などなど、「安心して子どもを2人、3人産む

入院無料「中3まで」が6割

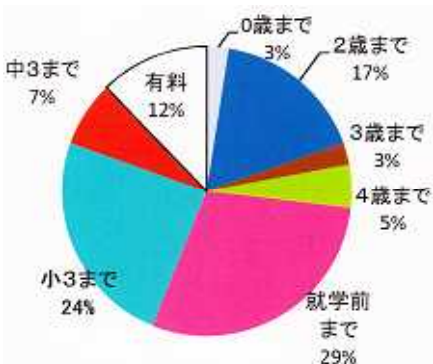


ことはできない」と不安の中、懸命に子育てをしていきます。

私たちは長年、国や県に対して子どもの医療費無料化を強く求めてきました。2001年からは、子育て会員・赤ちゃんたちといっしょに、県との交渉を重ねてきました。また、「子ども署名」の取り組みや、知事選挙では「県政×紙芝居」を赤ちゃん・リズム小組で広げること、「義務教育終了まで子どもの医療費無料化を」と全県ですすめてきました。

知事選挙直後の県交渉には、親子、サポーター、総勢四十人が参加。若いママ達が「海底トンネルに7000億円かけるのに、なぜ医療費を上げるの?」、「空港や道路、大型事業にお金をかけるのでなく、子育てにもっと光をあててほしい」と県に要求をつぎつけています。西宮支部は、赤ちゃん・リズム会員の要求カードを100枚以上も束ねてたたかう中、

通院無料「小3」「就学前」が6割



県下ではいち早く「通院・入院費とも中学3年生まで無料」を実現させています。

「県政も自治体も、声をあげれば変えることができるんだ」と子育て世代や会員の大きな喜びと確信になっていきます。

新日本婦人の会兵庫県本部 岸本友代会長

「若い世代は非常に生活が苦しいです。同じ兵庫県内でも住んでいる自治体によってとても大きな差があります。どこの市に住んでいても安心して子育てができるよう、一日も早く兵庫独自の助成はもちろんのこと、国の制度化を望みます」

子育て世代の声

2歳8カ月の子どもをもつ、神戸市垂水区の里山美穂さん「入院費が無料になってうれしいですが、通院回数の方が多いので、神戸も通院費をぜひ、無料にしてほしいです」

自治体ごとの制度は、「憲法県政の会」ブログ(五月五日)にアップ

逆立ちした兵庫県の新年度予算

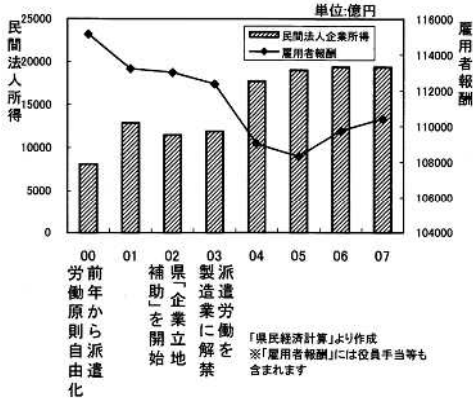
大企業には補助金、私学高校生支援は半減

兵庫県の新年度予算は、運動が実ったものもありますが、「新行革」で福祉や教育を削り、大企業応援、高額な高速道路などのむだを続ける基本姿勢は変わりません。

県経済をゆがめている大企業応援

大企業が中心の「企業立地補助」予算は37億円。県は、「（企業立地補助開始以来の）7年間で・約3万人の雇用が予定されているなど、本県経済に大いに貢献」（2月議会本会議）と言います。

しかし、総額218億円（尼崎・姫路工場の合計。予定も含む）の県の補助金を受けるパナ



民間法人企業所得は2・4倍に、働く人の給料は95%に

新年度予算で私立高校生の学費支援を増やした都府県 (文部科学省調べ)

都府県	2010年度当初予算案	前年度比で増えた金額
東京都	43億3700万円	9億5700万円
福井県	9500万円	200万円
山梨県	2100万円	200万円
京都府	9億8500万円	8億8500万円
大阪府	65億1600万円	1700万円
和歌山県	2400万円	300万円
広島県	5億7200万円	6700万円
高知県	1200万円	700万円
福岡県	10億8600万円	1億8900万円
大分県	4100万円	700万円
沖縄県	500万円	300万円
兵庫県	6億2200万円	5億9000万円

予算額には、授業料以外の減免補助を含む場合もある。

「お金の心配なく学びたい」公立高校の授業料が実質無償化されましたが、入学枠が限られているなか、私立高校に通う約3割の高校生とその家庭は、

2000年から2007年の間に、民間法人企業所得は2・4倍に増えていますが、県下の働く人の給料は逆に95%に目減り(グラフ参照)。大企業応援は、「貢献」どころか県経済をゆがめているのです。

ソニックが、姫路工場(I.P.Sアルファテクノロジ)の稼働にあたって募集しているのは、正社員ではなく、「3カ月更新・最長3年」の派遣社員100名です。

年間数十万円もの学費負担を強いられています。

国は、今年度から私立の生徒に12万円の就学支援金(低所得者は24万円)を支給。加えて、11都府県が、上乗せ支援を充実し、私立高校生への学費支援予算を増やしました(表参照)。

ところが、兵庫県は逆に、12億円の予算を今年度6億円に半減してしまいました。「お金の心配なく学びたい」の声にそむきながら、大企業には補助金、応援する相手が間違っているのではないのでしょうか。



「政権交代してもオール与党」の県政とたたかおう

憲法県政の会「第5回総会総会

二月十七日、「憲法県政の会」は、神戸市勤労会館で第五回総会を開き、五十八人が出席しました。総会は、〇九年知事選挙から七ヶ月以上たっていました。選挙戦を思い起こし、感動と連帯感が深まる場になりました。

石川康宏代表幹事は、知恵と力で五十万票を得たが、勝つためにもっと力が必要だと熱いあいさつ。北川伸一事務局長代行は、「十一年ぶりの候選案を採択しました。」

この一年をふり返るスライドのあと、知事候補として奮闘した田中耕太郎代表幹事が、出馬への経過や選挙運動のエピソード、現在の思いを語りました。各団体や、地域の会から積極的な発言のあと、提案された議案を採択しました。

明石の会「生産者とともに農業問題を学習」

3月下旬、憲法県政明石の会は、「農業のことを知る会」を開きました。



「会」では、2人の生産者が実態報告。コメ作りの中島努さんの「ペットボトル350mlの水が120円、ほぼ同じ量の2合の米は60円。時間労賃は200円以下」という話

にはびっくりの連続でした。「それでも『先祖伝来の土地を守りたい』」と熱く話をされました。

畜産の村上厚夫さんは、「オスの乳牛を肉用に肥育します。10万円の子牛を1年で2倍半にして30万円で売るが、えさ代がかかり4万5千円の補助でもトントンで、黒毛和牛の農家は10万円の補助でも10万円の赤字となる」と言います。

兵庫農民連の上野信行事務局長は民主党の農業政策に触れ、コメの「戸別所得補償」の低さや、「食料主権」を放棄する恐れがあると告発しました。この会を通じて「農業を守れ、都市農業を守れ」の共感が生まれました。